

2021年12月17日

各 位

会 社 名 日本コンセプト株式会社  
代表者名 代表取締役社長 松元孝義  
(コード番号：9386 東証第一部)  
問合せ先 常務取締役 若園三記生  
(TEL.03-3507-8812)

### 新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書について

当社は、2022年4月に予定される株式会社東京証券取引所の市場区分の見直しに関して、2021年12月15日にプライム市場を選択する申請書を提出いたしました。当社は、移行基準日時点(2021年6月30日)において、当該市場の上場維持基準を充たしていないことから、別紙のとおり、新市場区分の上場維持基準の適合に向けた計画書を作成しておりますので、お知らせいたします。

なお、移行基準日時点に未適合であった項目については、2021年11月30日時点における当社試算では既にプライム市場の上場維持適合基準を充たしておりますが、より高いガバナンス体制の構築やSDGs推進による持続的な成長、中長期的な企業価値向上に向けた取り組みにより、上場維持基準適合の維持に努めてまいります。

別紙 プライム市場上場維持基準の適合に向けた計画書

以 上

# プライム市場

## 上場維持基準の適合に向けた計画書

環境、つなぐ未来。

**NICHICON**  
NIPPON CONCEPT CORPORATION

2021年12月17日（金）  
日本コンセプト株式会社

東証1部  
9386

I

上場維持基準適合状況の確認

II

足元の決算状況

III

APPENDIX

I

# 上場維持基準適合状況の確認

環境、つなぐ未来。



当社は、取締役会での決議に基づき、2021年12月15日に東京証券取引所にプライム市場への申請書を提出済です。

なお、現在においては既にプライム市場の上場維持適合基準を  
満たしておりますが、

より高いガバナンス体制の構築やSDGs推進による持続的な成長、  
中長期的な企業価値向上に向けて、努力してまいります。

- 移行基準日（2021年6月30日）時点での判定におけるプライム市場の上場維持基準の未達項目については、現在は適合済
- 直近の状況として、全ての項目について適合済であることを確認

	プライム市場 上場維持基準	一次判定 (2021/6/30時点)		足元の状況 (2021/11/30時点) ※当社試算	
		一次判定結果	適合状況	足元の数値	適合状況
流通株式数 (単位)	20,000	58,517	○	<b>58,517*</b>	○
流通株式時価総額 (百万円)	10,000	9,546	×	<b><u>11,024**</u></b>	○
流通株式比率 (%)	35.0	42.1	○	<b>42.1*</b>	○
1日平均売買代金 (百万円)	20	17	×	<b><u>24***</u></b>	○

\*2020年12月31日時点の流通株式数5,851,721株を使用

\*\*算出基準日である2020年12月31日時点の流通株式数5,851,721株に、2021年9月1日から11月30日までの3か月間の東京証券取引所の売買立会における日々の最終価格の平均値を乗じて算出

\*\*\*2020年12月1日から2021年11月30日までの1年間における売買代金を日次平均して算出（小数点以下、省略）

- 積極的な設備投資により有利子負債は増加しているものの、ネット有利子負債は減少。自己資本は着実に増加しており、ネットD/Eレシオは低下傾向
- 重要な経営指標である4項目については新型コロナの影響により昨年は一時的に伸び悩むが、今期は大幅に改善。SDGs推進による持続的な成長等により、更なる企業価値の向上に努める

(百万円)	2020/12期 第2四半期	2020/12期	2021/12期 第2四半期
有利子負債	6,243	5,942	<b>6,895</b>
現預金	4,980	4,835	<b>6,038</b>
ネット有利子負債	1,263	1,107	<b>857</b>
自己資本	11,110	11,404	<b>12,110</b>
総資産	19,041	19,008	<b>21,104</b>
ネットD/Eレシオ	0.11倍	0.10倍	<b>0.07倍</b>
【経営指標】			
売上高	6,069	12,277	<b>7,554</b>
営業利益	711	1,496	<b>1,173</b>
経常利益	718	1,450	<b>1,121</b>
自己資本比率	58.3%	60.0%	<b>57.4%</b>

## 環境、つなぐ未来。

環境、つなぐ未来。



### 企業理念

- 1 わたしたちは、地球の環境破壊を防ぎ、反復利用できる輸送容器を活用した交際物流サービスを通じ、人類が未来永劫に亘り活躍できる社会の維持に貢献します。
- 2 わたしたちは、働く厳しさと喜びを共有するボーダレスな国際総合物流カンパニーとして、高品質でお客様にご信頼いただけるサービスを、責任をもってご提供いたします。
- 3 わたしたちは、修練された技術のサービスをご提供するため、日頃より克己して研鑽に努めます。
- 4 わたしたちは、広く社会全体に奉仕する公共性と豊かな国際性を備えた、社会に誇れる環境国際物流企業として邁進します。

**SDGsの目標達成に寄与する事業を行いながら、今後もタンクコンテナを用いた輸送品目の拡大等を通じて、地球温暖化や海洋汚染の防止に努めていくことを企業理念とする**

環境、つなぐ未来。



## 中長期的経営方針

- 1 包装材を必要とせず残液や排水を適切に処理することにより、地球の環境を保全しながら化学品の輸送が可能な容器であるタンクコンテナによる物流を、日本をはじめ遍く世界に展開しビジネスの拡大を図る。
- 2 フロンガスの回収・再生・無害化に至る当社独自のビジネスモデルを日本国内で展開し、ガス関連ビジネスを拡大する。
- 3 当社独自のグローバルネットワークを活かし、サステナブルな環境保護をしながらビジネスの更なる取り込みを図る。
- 4 2021年6月に(株)商船三井及び商船三井ロジスティクス(株)と3社共同で設立した合弁会社を通じて、新たな販路をグローバルに展開する。

環境にやさしいタンクコンテナを活用したビジネスをグローバルに展開し、  
地球の環境保全に貢献しながら着実な成長を図る

■ 下記の4つの強みにより当社の企業価値を向上させ、中長期的に業績拡大へ

- 1 環境保全に適合する化学品専用タンクコンテナの優位性
- 2 カーボンニュートラルを基本方針とした世界的企業活動の推進
- 3 商船三井グループとの世界規模でのコラボレーション推進
- 4 環境保全に適合したガス用タンクコンテナの世界的普及推進

# 環境保全に適合する 化学品専用タンクコンテナの優位性①



- タンクコンテナは、\*ISO規格に基づく高い強度と耐久性を備え、危険物を一般の貨物と同様に海陸一貫輸送が可能。大量輸送が可能となり、二酸化炭素の排出量を削減
- タンクコンテナは長期に亘り反復利用が可能であり、減価償却終了後にかかる原価はゼロ
- 包装材を一切使用しないため、輸送に伴う廃棄物は発生せず

\*ISO : International Organization for Standardization(国際標準化機構)

## 持続可能なビジネスモデル



環境、つなぐ未来。

# 環境保全に適合する 化学品専用タンクコンテナの優位性②



- 当社ビジネスモデルの根幹は「One Way輸送」であり、液体貨物納品後のタンクコンテナを現地で洗浄、そして別の目的地へ輸送するため通常の片道運賃で提供することが可能（価格優位性）
- タンクローリーによる陸上輸送から、鉄道や内航船も使用した複合輸送を行うことでトラックの輸送比率を下げモーダルシフトを促進。効率的な輸送を展開しつつ、定時運航による計画的輸送、ドライバー不足対策や交通渋滞の緩和などにも対応

## One Way輸送

独自のグローバルネットワークにより、「One Way輸送」を世界中に提供できる体制を構築



## 多様な輸送手段

※タンクコンテナはドライコンテナと同サイズであり、鉄道や内航船、トラックといった様々な輸送手段にそのまま載せ替えることが可能

### ● 鉄道輸送

トラック輸送に比べてCO<sub>2</sub>を91%削減。計画的輸送に優れる



### ● 内航船輸送

トラック輸送に比べてCO<sub>2</sub>を83%削減。大量輸送に優れる



### ● トラック輸送

タンクコンテナはタンクローリーの2倍の輸送が可能（20t）



中身の移し替えが不要なため、Door to Doorの輸送が可能（異物混入の可能性回避）



(出所)国土交通省 運輸部門における二酸化炭素排出量

# 環境保全に適合する 化学品専用タンクコンテナの優位性③



- タンクコンテナ排水の水質浄化をデポで行い、水質浄化のためにバクテリアによる有機物の分解等の様々な浄化処理を実施。厳格な処理により、環境破壊を防止
- タンクコンテナは貨物の輸送だけでなく保管庫としても使用できるうえ、積載している貨物の加温も可能。輸送途中の移し替えの必要がなく、中間貯蔵設備が不要

## 洗浄・排水工程の徹底管理



## 国内物流網における附帯サービス

### ● 保管

危険物の貯蔵所として認可を受けている当社のデポにおいて、危険物を含めた貨物をタンクコンテナに積載したまま安全に保管



### ● 加温

機械の潤滑油やパーム油(椰子油)など、常温では固まってしまう貨物を温水や蒸気で温め、溶かしたうえで工場に納品。



### ● 移し替え

タンクコンテナを受け入れるスペースのないお客様に対しては、タンクローリーやドラム缶等に貨物を移し替えて配送



# カーボンニュートラルを 基本方針とした世界的企業活動の推進①

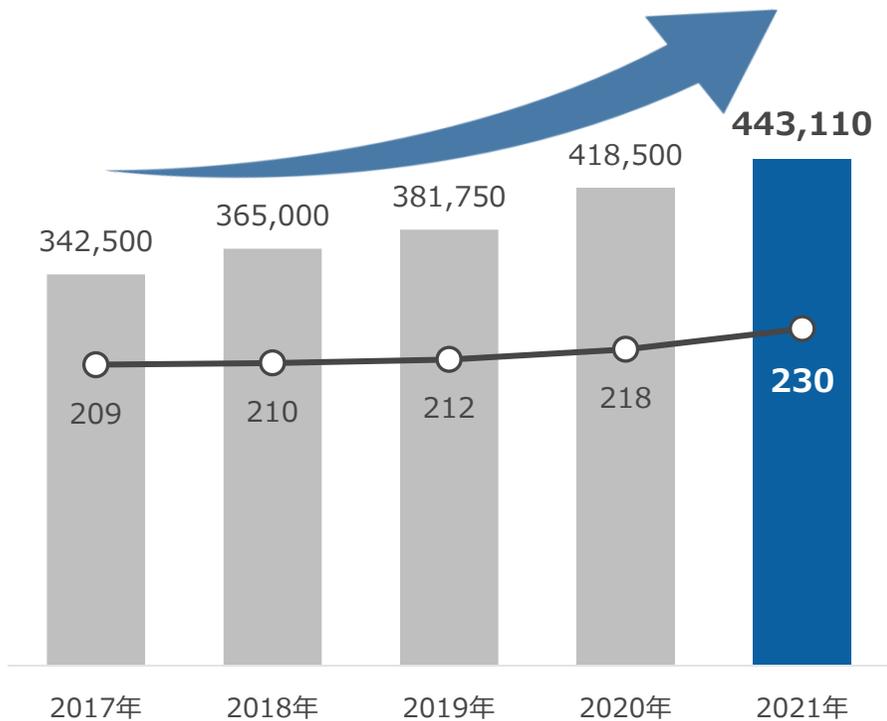


- 世界で利用されているタンクコンテナ基数は、ここ5年間で29.4%と右肩上がりに増加
- 当社の保有機数は25.5%増加し、世界シェア\*2.1%程度を維持

\*2021年1月1日時点の世界全体のタンクコンテナ基数を基に算出

## 世界全体のタンクコンテナ基数等

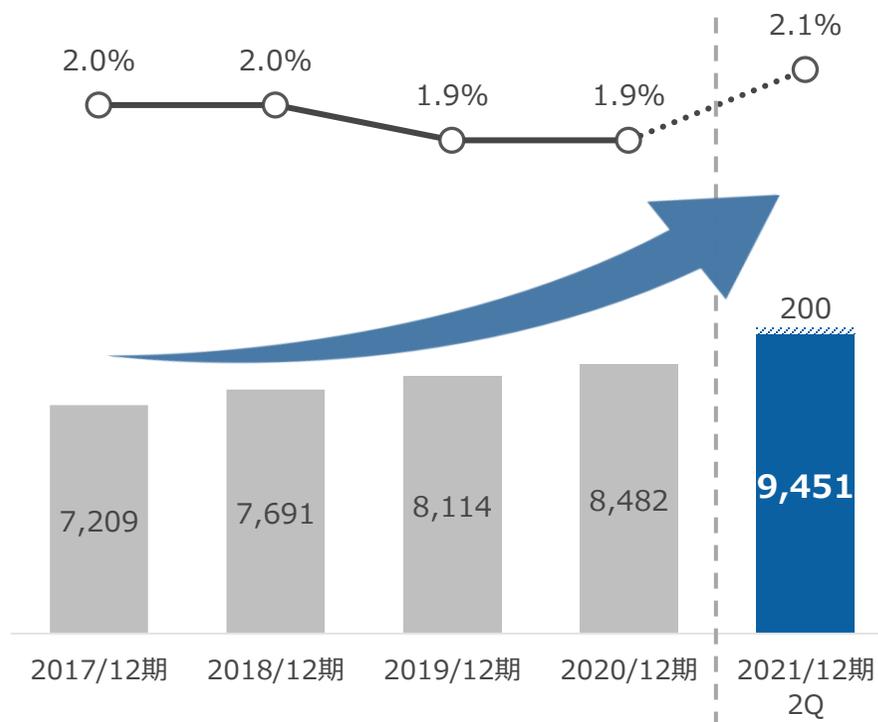
■ 世界全体のタンクオペレーターが保有する基数  
○ 世界全体のオペレーター数 ※各年1月1日時点



(出所)ITCO 2021 Global Tank Container Fleet Survey

## 当社のタンクコンテナ保有基数及び世界シェアの推移

■ 当社の保有基数 ■ 発注済基数 ○ 世界シェア



環境、つなぐ未来。

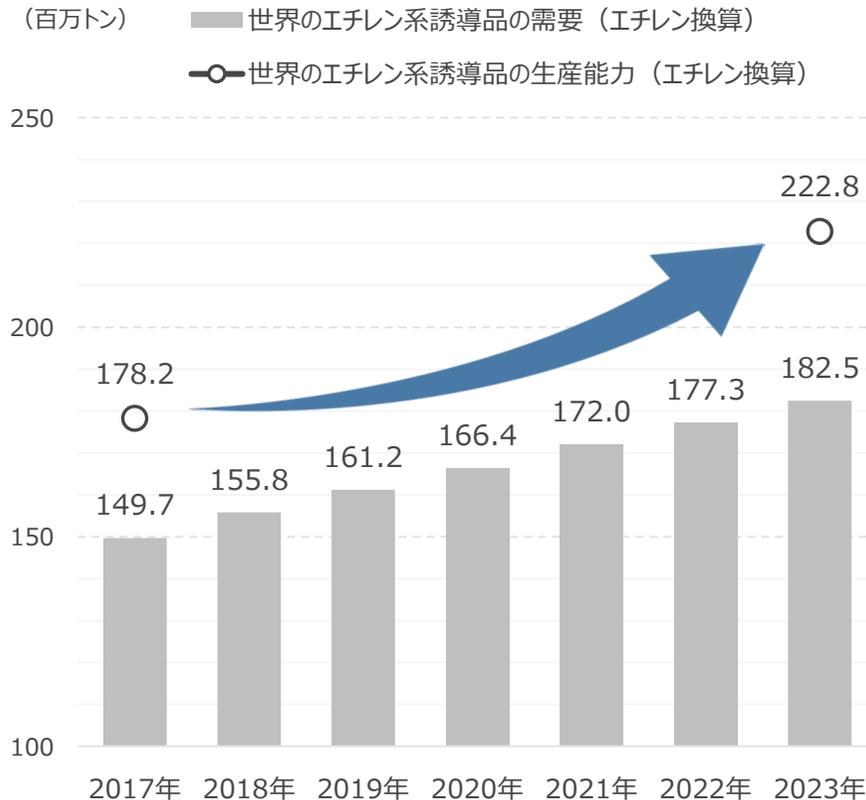
# カーボンニュートラルを 基本方針とした世界的企業活動の推進②



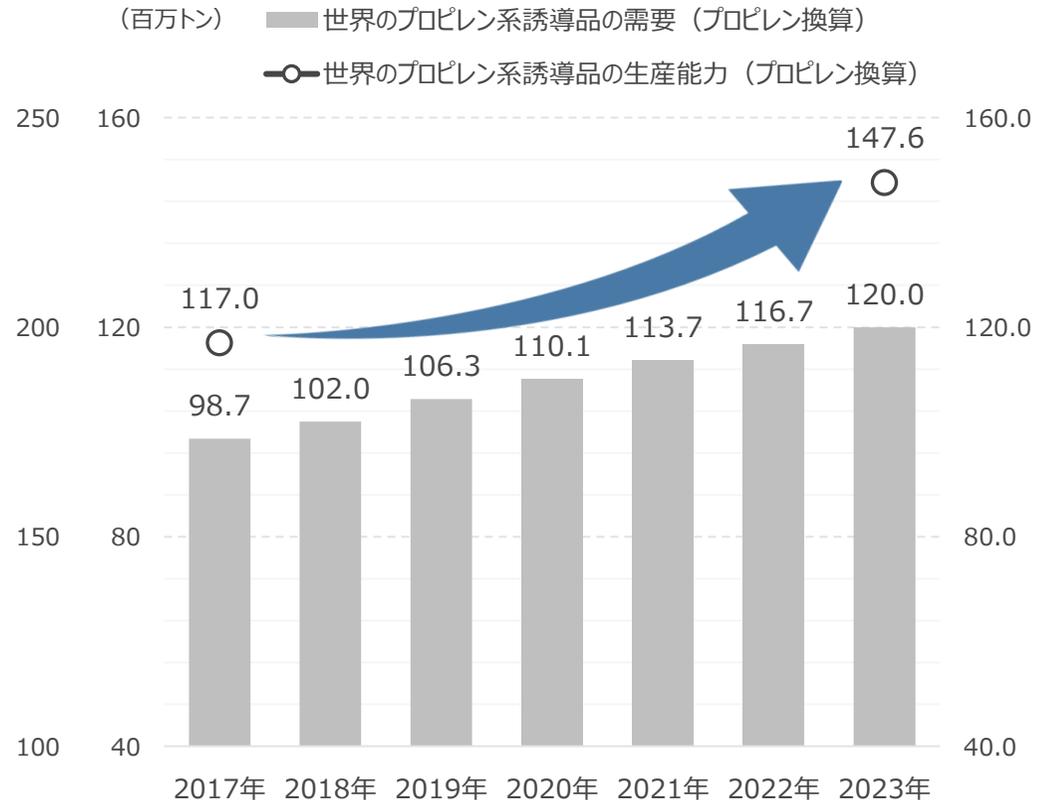
- 経済発展に伴う所得水準向上により、エチレン系／プロピレン系誘導品\*のニーズが世界的に拡大
- 両者共に需要の高まりに応じて生産能力も拡大し、2023年には2017年比でそれぞれ25.0%増、26.2%増と大幅に拡大の見込み

\*化粧品、ペットボトル、ポリエステル繊維、自動車の内装や調理器具の取っ手の原料、また不凍液、医薬品、染料、香料、溶剤、塗料、農薬、柔軟剤、酸味料など製品は多岐に亘る

### 世界のエチレン系誘導品の需要推移及び生産能力



### 世界のプロピレン系誘導品の需要推移及び生産能力



(出所)経済産業省 世界の石油化学製品の今後の需給動向

環境、つなぐ未来。

- 2021年6月に(株)商船三井(MOL)\*及び商船三井ロジスティクス(株)(MLG)と3社合同で設立した合併会社(MLGTC)のグローバルネットワーク活用や同社の既存顧客紹介による営業活動を推進
- アジア地域の代理店業務の委託を開始し、今後は欧米地域や現在拠点のない地域においても業務委託を推進。輸送事業に関する業務提携の拡大・深度化を図る

\*当社発行済株式の15%を取得しており、2018年に当社と資本業務提携契約を締結

環境、つなぐ未来。  
**NICHICON**  
NIPPON CONCEPT CORPORATION



**MOL** 商船三井

**MOL** MOL Logistics

当社、MOL、MLGが一体となり、安全で高品質な化学品輸送サービスをグローバルに提供

欧米諸国やその他現在拠点のない地域において、業務提携エリアを拡大

化学品需要の成長著しいタイ、中国、インド等アジア主要国で、順次当社代理店引受拡大

2021年6月にMOL及びMLGと3社合同で合併会社(MLGTC)を設立

MLGのメキシコ、ミャンマー、及びベトナム拠点において、当社海外代理店業務引受

MOLと海外拠点及び営業ネットワークの共有やサービスの相互利用

2018年にMOLと資本業務提携契約を締結

環境、つなぐ未来。

# 環境保全に適合した ガス用タンクコンテナの世界的普及促進

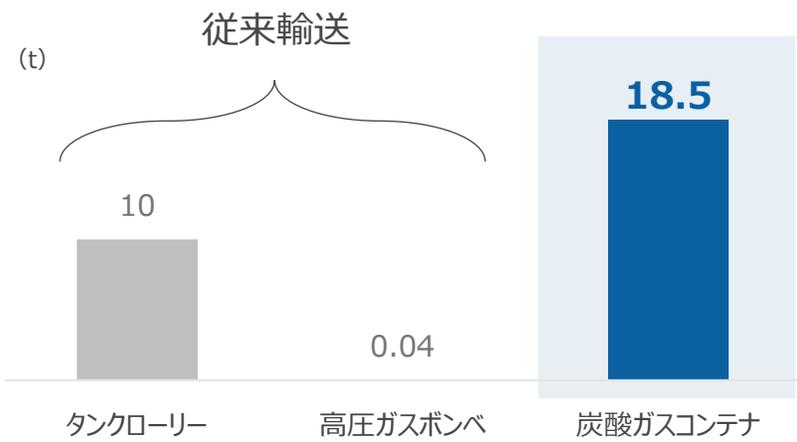


- 環境保護の観点から厳しい取扱いが求められているフロンガスに関して、当社は適切な処理を徹底
- ISO規格のガスタンクコンテナを\*日本基準を充たすように設計変更し、液化炭酸ガスビジネスの営業促進
- 高圧ガスビジネス売上高は堅調に増加し、売上高全体に占める割合も4%程度を維持。今後も益々の拡大を見込む

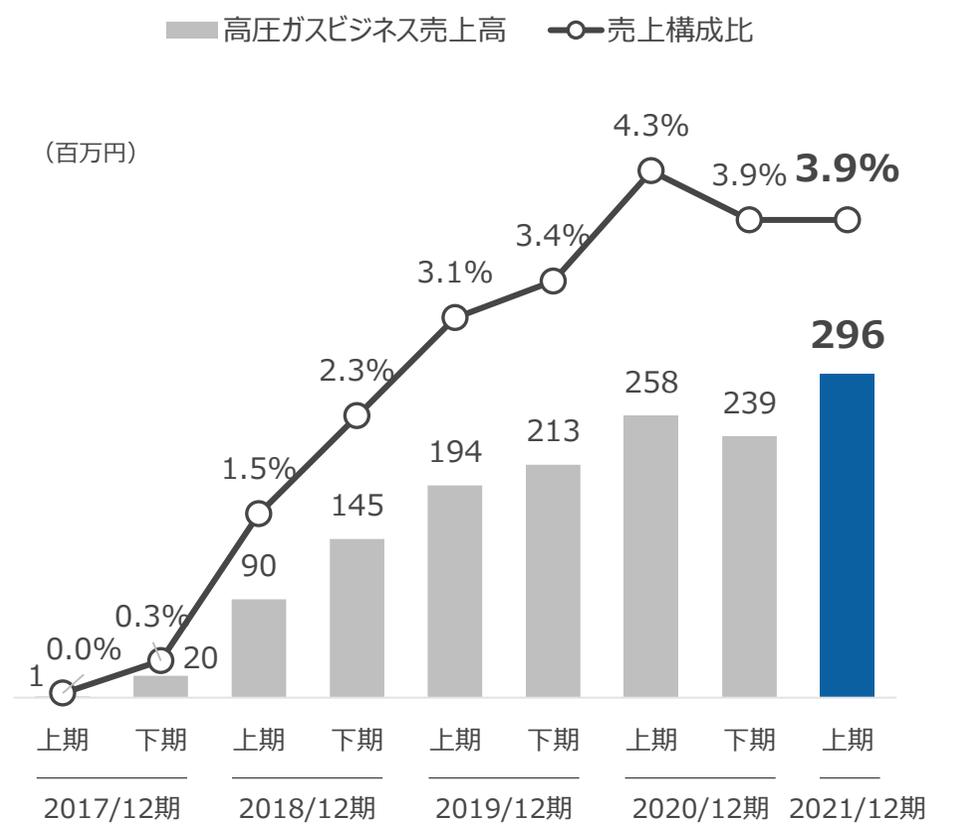
\*高圧ガス保安法第44条第1項に基づく検査に合格

## 輸送形態別（積載）容量比較

従来の輸送形態に比べて輸送効率が格段に向上  
化石燃料消費も削減され、地球環境保全にも配慮



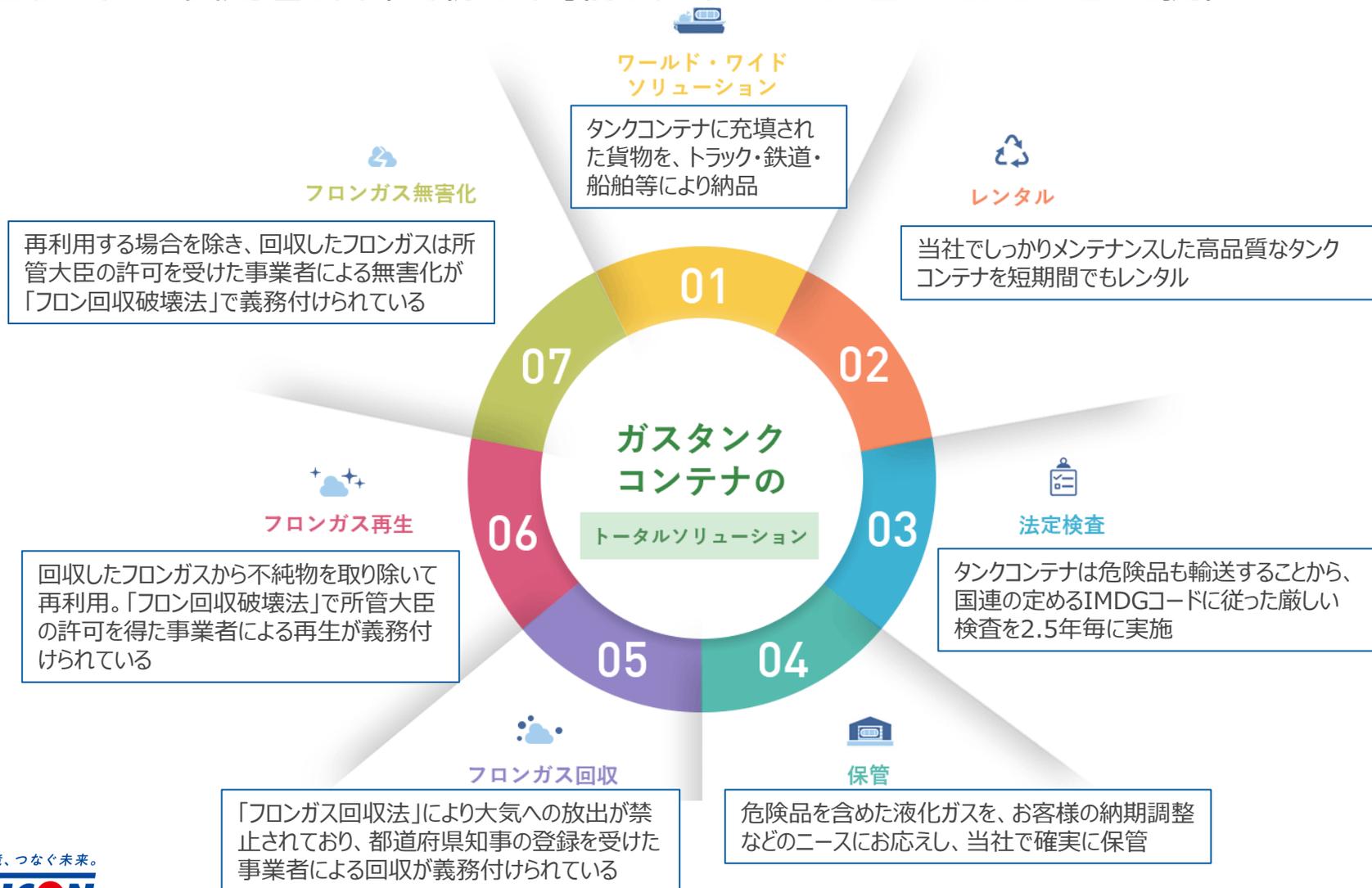
## ガスタンクコンテナ事業 売上実績



# タンクコンテナを通じたフロンガスの一貫処理



- ガスタンクコンテナのワールドワイドロジスティクスを含め、保管・回収・再生・無害化(分解)・検査に至るまでの一貫処理を日本で初めて可能とし、トータルソリューションサービスを提供



II

# 足元の決算状況

環境、つなぐ未来。



- 新型コロナの影響による先行き不透明な事業環境は依然として継続しているものの、輸出の伸びを着実に捉え、新規取引の獲得など増加基調を維持
- 売上高は前年同期比24.5%増収、営業利益は同65.0%増益。第2四半期累計期間における過去最高売上および過去最高益を更新

(百万円)	2020/12期			2021/12期		
	上期	下期	通期	上期	前年同期比	
売上高	6,069	6,208	12,277	<b>7,554</b>	+1,484	<u>+24.5%</u>
売上総利益	1,428	1,478	2,906	<b>1,914</b>	+486	+34.0%
営業利益	711	785	1,496	<b>1,173</b>	+462	<u>+65.0%</u>
経常利益	718	731	1,450	<b>1,121</b>	+402	<u>+56.0%</u>
親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益	512	516	1,029	<b>796</b>	+283	<u>+55.3%</u>
売上総利益率	23.5%	23.8%	23.7%	<b>25.4%</b>	+1.8ppt	-
営業利益率	11.7%	12.7%	12.2%	<b>15.5%</b>	+3.8ppt	-
経常利益率	11.8%	11.8%	11.8%	<b>14.8%</b>	+3.0ppt	-
保有基数（期末）	8,163基	-	8,482基	<b>9,451基</b>	+1,288基	+15.8%
稼働率（期中平均）	71.0%	-	71.1%	<b>76.2%</b>	+5.1ppt	-
為替（対US\$）	108.2円	-	107.4円	<b>107.8円</b>	0.4円高	0.4%高

# 当社ビジネスの原動力：国内輸送取扱本数

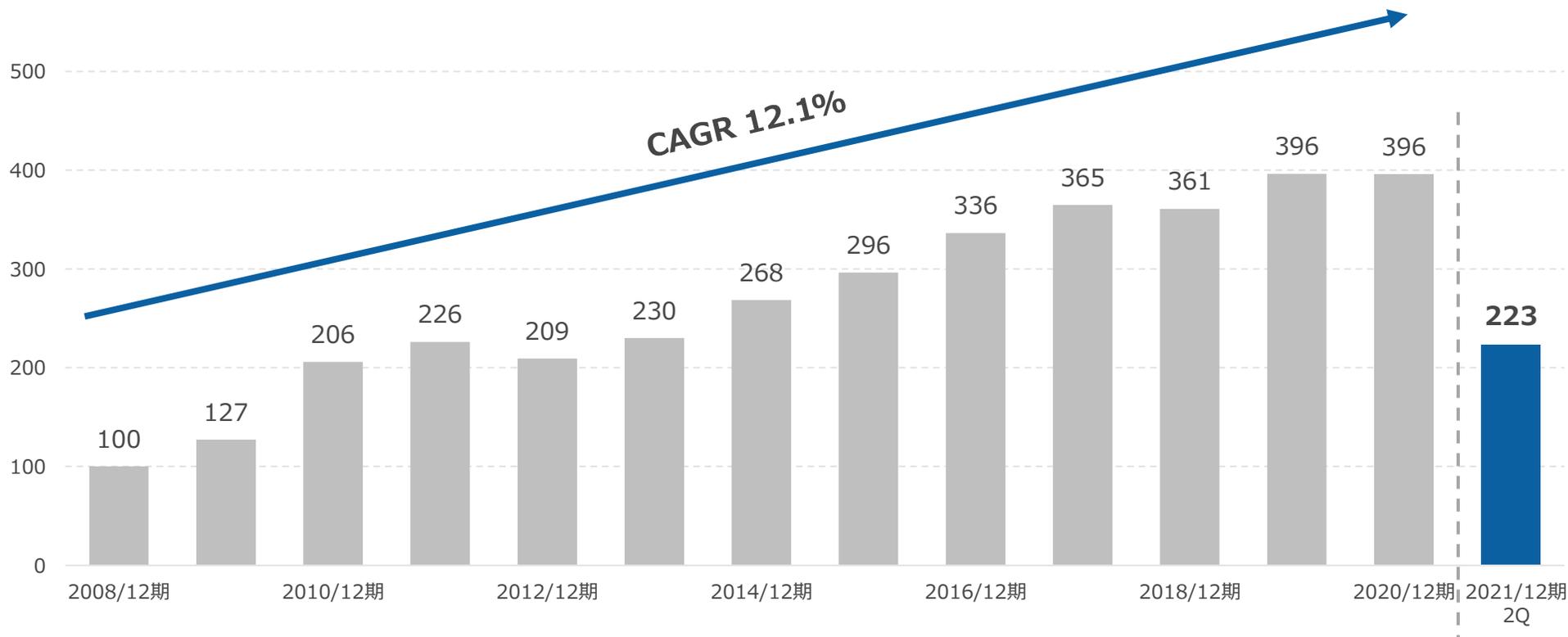


- 高い洗浄技術とノウハウにより、\*コンタミネーション発生ゼロ。独自の洗浄施設において徹底した洗浄とメンテナンスを実施。国内顧客の厳しい要求を満たす高い技術力により、国内輸送取扱本数は着実に増加。2021/12期第2四半期は前期を上回るペースで推移

\*コンタミネーション：異物混入（主に前荷の混入）

### 国内輸送取扱本数の推移

※2008/12期を100とし、各年の取扱本数を指数化



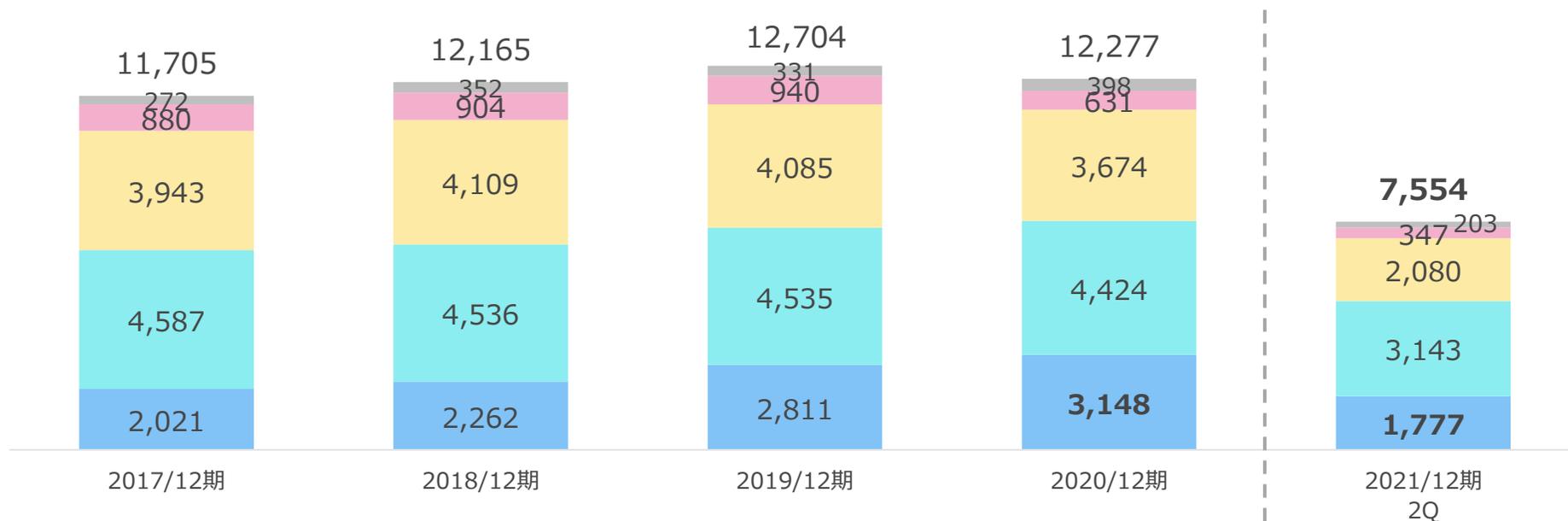
環境、つなぐ未来。

- 海上運賃の上昇が継続する中、海外取引は順調に伸長。国内輸送等売上も堅調に推移
- 当社の強みである国内支店網を活かした保管や加温業務が大幅に増加し、2021/12期2Qにおける国内輸送等売上は前年同期比16.5%増加と2桁成長を維持

## 輸送形態別の販売実績

輸送形態別売上は、輸送経路による区分であり、輸送に付随して発生する売上も含む

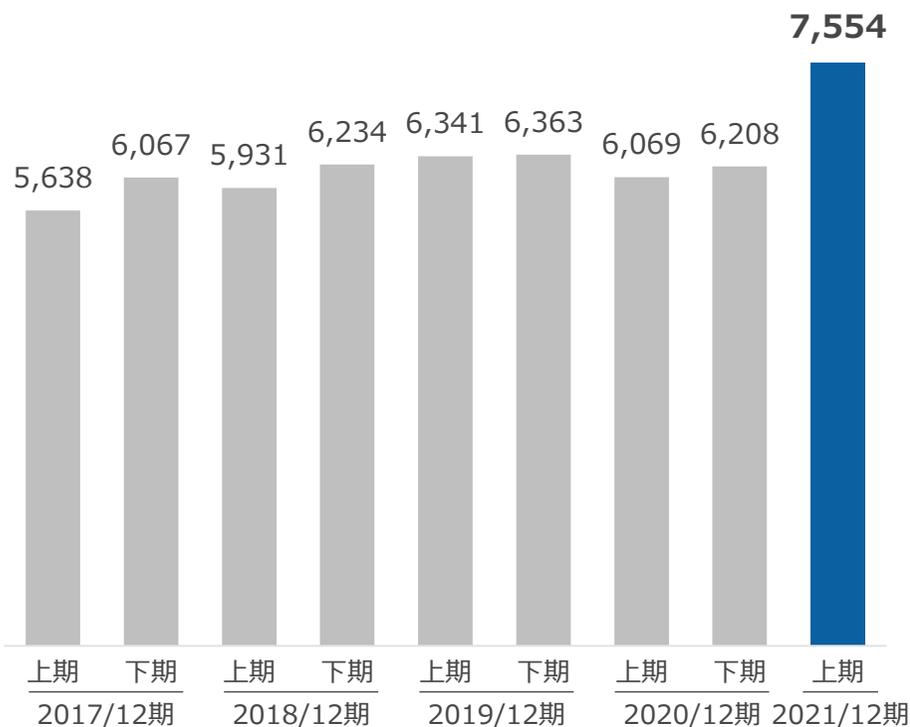
■ 国内輸送等売上 ■ 輸出売上 ■ 輸入売上 ■ 三国間売上 ■ その他



- 取扱本数の大幅な増加により、2021/12期上期の売上高は75億54百万円となり、第2四半期累計期間において過去最高売上を更新
- 海上運賃の上昇や設備投資に伴う減価償却費の増加により原価は増えているものの、営業利益率は15.5%に改善。営業利益は11億73百万円となり、第2四半期累計期間において過去最高益を更新

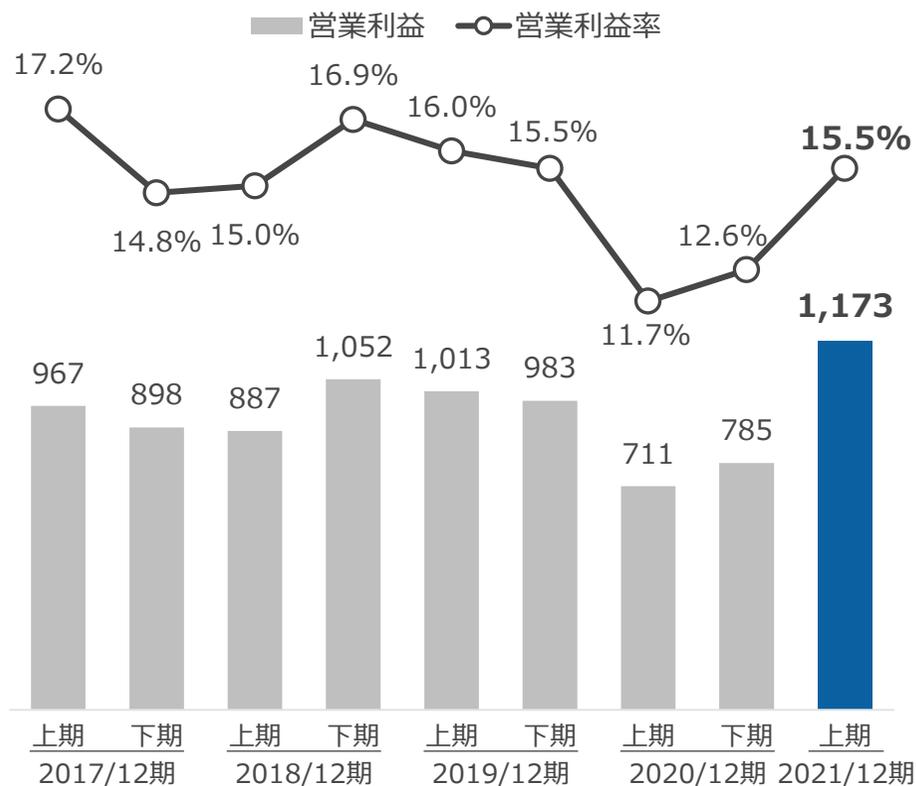
### 売上高の推移

(百万円)



### 営業利益及び営業利益率の推移

(百万円)



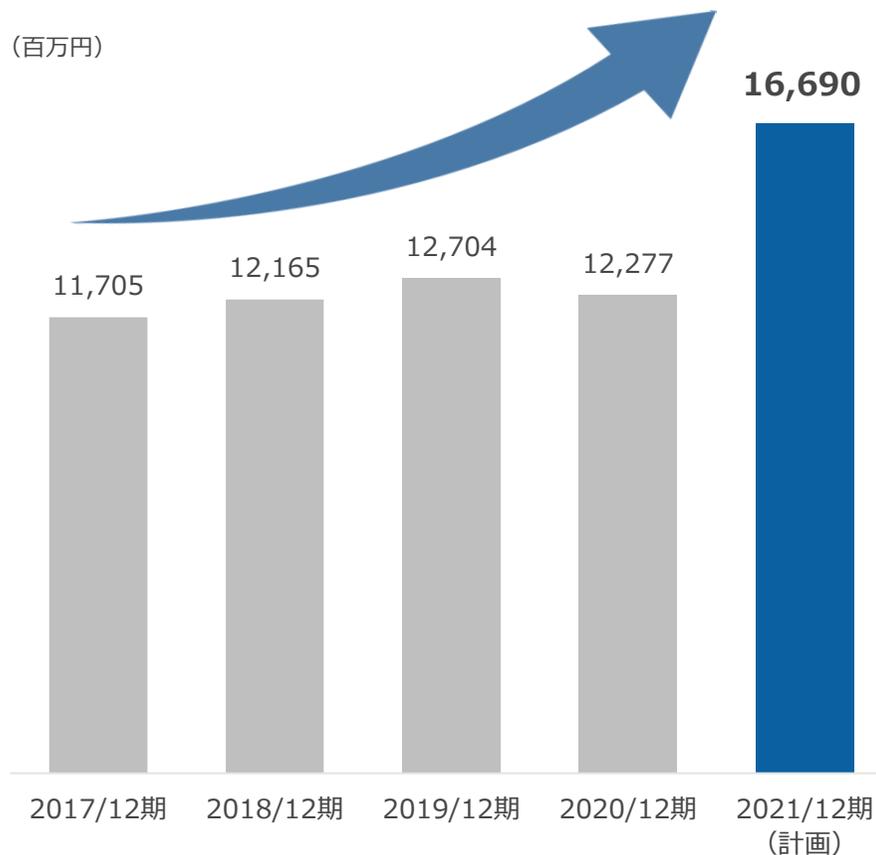
環境、つなぐ未来。

# 2021/12期 通期見通し：増収増益（過去最高へ）

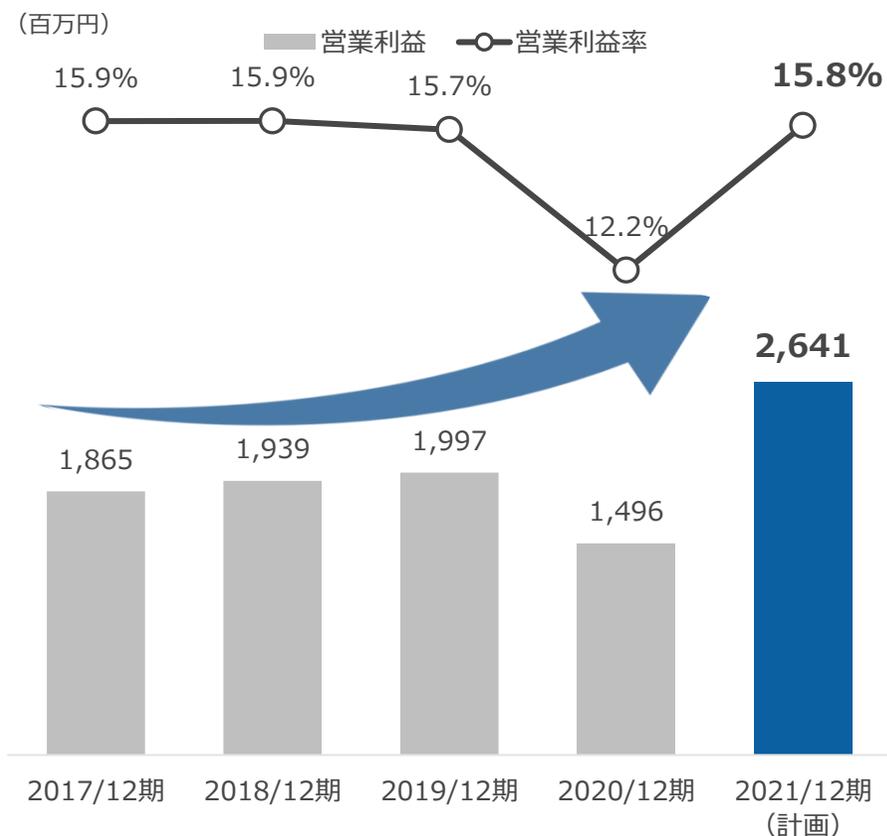
- 新型コロナの影響により2020/12期第2四半期以降は業績予想を未定としていたが、現時点で入手可能な情報に基づき、2021/12期業績予想を算出
- 売上高は前期比35.9%増、営業利益は同76.5%増と大幅に伸びる見込み

(百万円)	2019/12期 実績	2020/12期 実績	2021/12期		
			計画 (2021/11/11時点)	前期比	
売上高	12,704	12,277	<b>16,690</b>	+4,413	+35.9%
営業利益	1,997	1,496	<b>2,641</b>	+1,145	+76.5%
経常利益	1,995	1,450	<b>2,573</b>	+1,123	+77.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,405	1,029	<b>1,786</b>	+757	+73.5%
営業利益率	15.7%	12.2%	<b>15.8%</b>	+3.6ppt	—
経常利益率	15.7%	11.8%	<b>15.4%</b>	+3.6ppt	—
保有基数（期末）	8,114基	8,482基	<b>9,700基</b>	+1,218基	+14.4%
稼働率（期中平均）	74.6%	71.1%	<b>77.0%</b>	—	—
為替（対US\$）	109.0円	108.0円	<b>112.0円</b>	+4.0円	—

## 売上高の推移



## 営業利益及び営業利益率の推移





- 当社は、地球環境への影響が少なく反復利用できる「ISOタンクコンテナ」を世界中に流通させることを目的に、1994年に創業。タンクコンテナは経済性が高いうえ地球の環境破壊を防ぎながら、人類が未来永劫にわたり活躍のできる社会維持に貢献



- 事業活動の知名度向上や法令準拠の情報開示を継続。また、今後は投資家目線での情報開示を心掛け、IR活動の推進を図る

- ・カーボンニュートラルな事業活動の知名度向上
- ・法令に準拠した情報開示
- ・機関投資家との対話推進
- ・投資家目線での分かりやすい情報の開示・提供

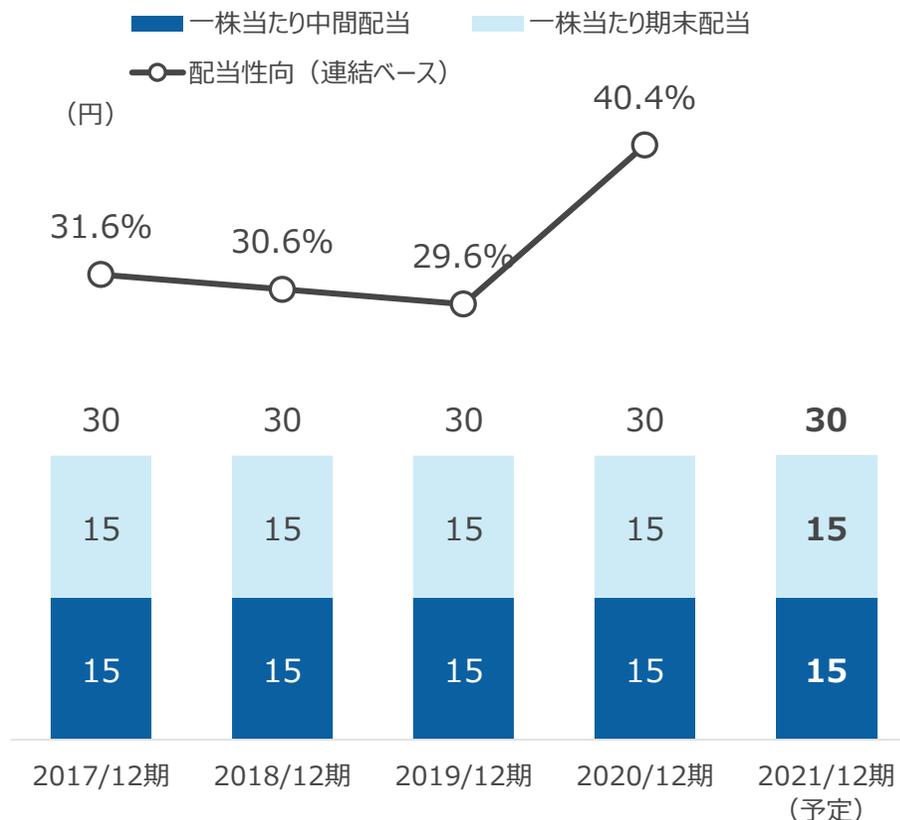


- 安定配当政策を維持しつつ、業績に応じた増配も検討
- 基本方針は、業績に応じた配当を進めつつ、企業価値向上のための設備投資と内部留保の蓄積のバランスを考慮。2021/12期の年間配当については、現状30円の予定（中間15円、期末15円）

## 資本政策

- 安定配当政策の維持
- 環境の維持に役立つ設備投資・成長投資計画があれば積極的に投資する

## 配当政策



- 健全で透明性の高い経営を行い、効率的な組織体制を整備していくことをコーポレート・ガバナンスに関する取り組みの基本方針とし、より実効性の高いコーポレート・ガバナンスの構築に取り組む
  - 企業価値を最大化することを通じて、株主の皆様をはじめ、お客様、取引先、地域社会、従業員から信頼される企業となる
  - 株主の皆様をはじめ全てのステークホルダー（利害関係者）のご期待に応え良好な関係を構築する
  - 社会的責任及び公共的使命を十分認識し、健全な成長を持続できる企業であり続けることを目指す



# APPENDIX

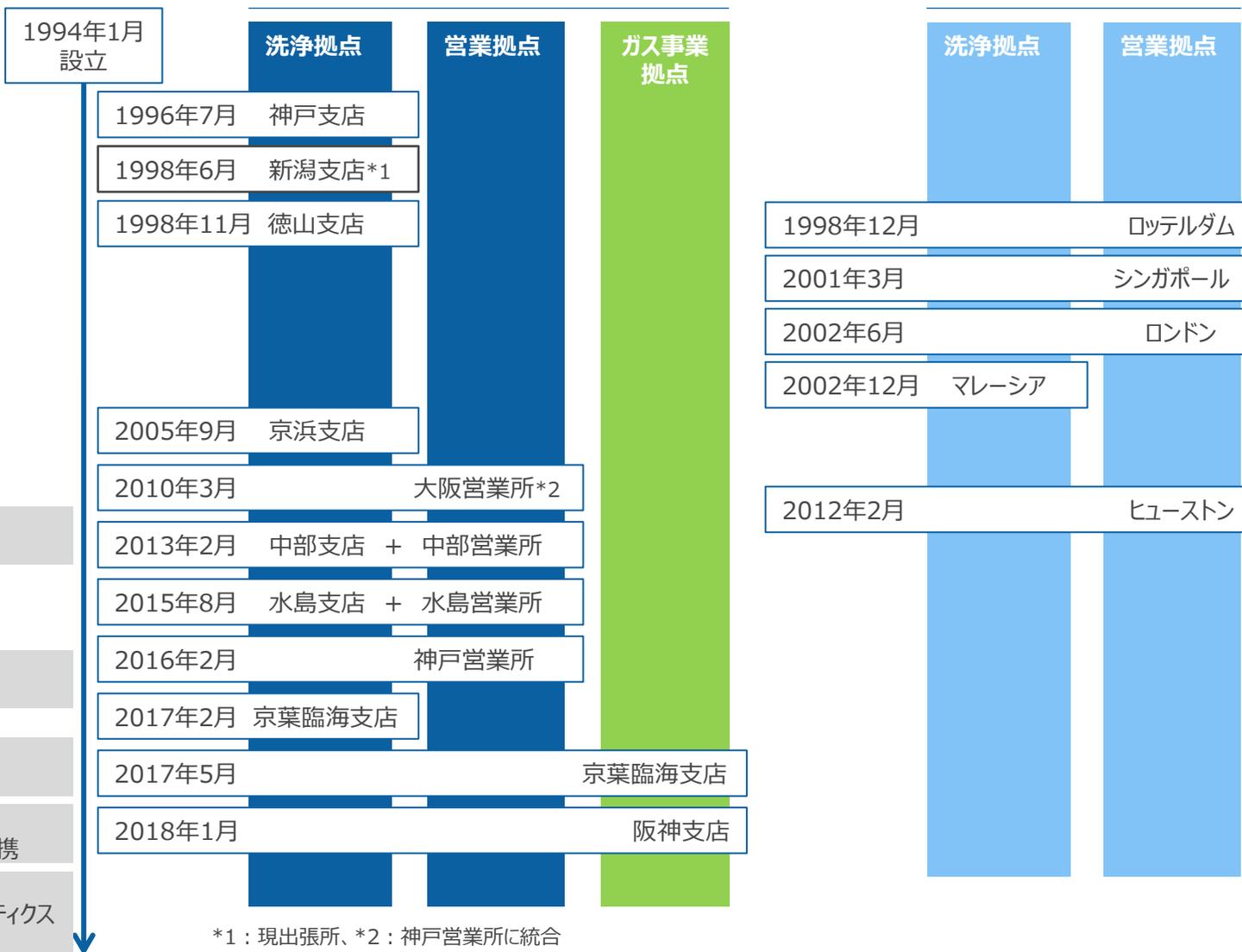


社名	日本コンセプト株式会社
設立	1994年1月6日
所在地	東京都千代田区内幸町2-2-2 富国生命ビル8階
代表取締役社長	松元 孝義
資本金	1,134,781,750円（2021年6月末時点）
上場市場	東京証券取引所市場第一部
単元株式数	100（株）
決算期	12月
子会社／関連会社	7社
従業員数	203名（連結：2021年6月末時点）

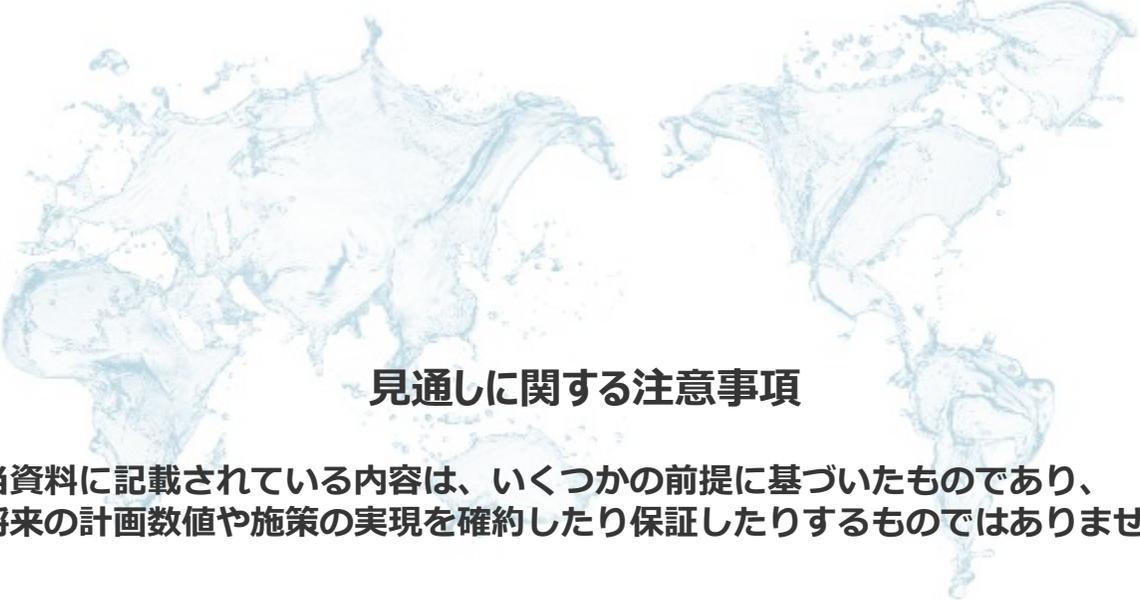


## 国内

## 海外



環境、つなぐ未来。



## 見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、  
将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません

環境、つなぐ未来。



<お問い合わせ先>

広報部 IR担当

03-3507-8812

[inquiry@n-concept.co.jp](mailto:inquiry@n-concept.co.jp)